

オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	疫病	葉病	苗立枯病	灰色かび病	黒斑病	うどんこ病	葉枯細菌病
タチガレン液	32		*c	2			Ⓔ				
トップジンM水㊦	1		1	3		⊙					
ベンレート水⊙	1		1	3		⊙					
アフェットFL	7		1	3			⊙		⊙		
アミスター20FL	11		1	2					⊙		
ファンタジスタ顆水	11		1	3		⊙	⊙		⊙		
トリフミン水	3		1	3		⊙		⊙	⊙		
ロブラール水	2		1	3			⊙	⊙			
リゾレックス水	14		*a	2			Ⓜ				
ダコニール1000FL	M5		1	5		⊙					
モレスタン水	M10		1	3					⊙		
ユニフォーム粒剤	4・11		*b	1			⊙				
			1	3	⊙						
カスミンボルドー水	24・M1		*d	3							⊙

㊦:チオファネートメチル含有剤 ⊙:ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での⊙は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP.856参照)。

*a:は種時及び子葉展開時 *b:は種前 *c:は種時～発芽初期

*d:収穫開始7日前まで

Ⓔ:ピシウム菌による病害 Ⓜ:リゾクトニア菌による病害

オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ヨ コ バ イ 類	カ メ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ 類	ネ キ リ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ
オルトラン水	1B		*e	1		◎		フ								
オルトラン粒	1B		*f	2		◎										
ダイアジノン粒5	1B		*h	2										◎		
ネマキック粒	1B		*b	1												◎
ネマトリンエース粒	1B		*a	1												◎
アディオソ乳	3A		1	3		◎			◎			◎				
ガードベイトA粒	3A		*c	3										◎		
トレボン乳	3A		1	3		◎			◎							
アクタラ顆溶	4A		1	3		◎										
アドマイヤーFL	4A	劇	1	3	施	◎				◎						
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	4A		1	2		◎		フ								
アルバリン粒 スタークル粒	4A		*g	1		◎										
モスピラン顆溶	4A	劇	1	3		◎										
ダントツ溶	4A		1	3		◎										
アフアーム乳	6		1	2									◎			
コルト顆水	9B		1	3		◎	◎									
チェス顆水	9B		1	3		◎										
コテツFL	13	劇	1	2								◎	◎			
アタブロン乳	15		1	4							◎	◎	◎			
カスケード乳	15		1	2							◎	◎	◎			
マトリックFL	18		1	3							◎					
フェニックス顆水	28		1	2								◎				
プレバソンFL 5	28		1	3								◎	◎			
ベネビアOD	28		*d	3		◎										
ウララDF	29		1	3		◎		フ								
グレーシア乳	30		1	2								◎	◎			
プレオFL	UN		1	2								◎	◎			
モレスタン水	UN		1	3												◎

*a:は種前 *b:は種又は定植前 *c:は種時～生育初期 *d:収穫開始3日前まで

*e:収穫開始7日前まで *f:収穫開始14日前まで

*g:生育期 (但し、収穫開始14日前まで) *h:収穫開始30日前まで

施:施設栽培

フ:フタテンミドリヒメヨコバイ

オ
ク
ラ

オクラ (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒根病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	
	育苗期～生育初期	・発病株は早めに処分する。	
半身萎凋病	定植前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌は多犯性で、ナス、トマト、イチゴ、ウドなどをおかす。
	生育期	・発病株は早めに処分する。	
葉すす病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 トップジンM水和剤① 1500倍	
苗立枯病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	本病は主にピシウム菌、リゾクトニア菌による。 #1 ピシウム菌にのみ有効。 #2 リゾクトニア菌にのみ有効。
	播種時	1. 過密な播種を避け、育苗床の過湿に注意する。 2. 次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤#1 500～1000倍 50～200ml/株 リゾレックス水和剤#2 1000倍 150ml/植穴(10/土壌1㎡)	
うどんこ病・ハダニ類	生育期	・発生を認めたら次の薬剤を散布する。 モレスタン水和剤 3000倍	
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 オルトラン水和剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	
オオタバコガ	生育期	1. 被害果を処分し、周辺に幼虫がいたら捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 コテツフロアブル 2000倍	虫糞などで幼虫の発生を確認する。
ネコブセンチュウ	播種前	1. 発生圃場では被害残物(地下部)を取り除いておく。 2. 前作物に寄生が認められたところでは、土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。 3. 次の薬剤を全面土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10a	
その他の病害虫		フタトガリコヤガ、ワタノメイガ	